

本講義の内容・目標

人為的と思われる原因にて、地球は全球的な、そして地域的な環境汚染問題に呻吟している。本講義では、地球スケールから地域スケール、更に居住者スケールの各階層を対象として、特に環境汚染を通底するキーワードとしてその物理的、化学的、すなわち自然科学的メカニズムを説明した上で、この問題に対応する社会的メカニズムを解説する。

前半は建築・都市環境スケールに焦点を当て生活環境システムを構成する各種物理、化学的要素を個別に解説する。後半は地球環境スケールを対象として環境汚染の自然科学的メカニズムを説明した上で、環境汚染に対する政治、経済、健康科学的な対応を含めて講義する。

本講義の終了時には、人間スケールから地球スケールでの環境を環境要素毎に、又、全体システムとして論理的に理解を深めることが目標である。

オンライン講義

2020 年度は、オンライン講義システムを使用する。受講者は Teams アプリの事前インストールが必要である。Moodle 上で「環境システム学」に登録し、講義開始時間(Mon 10:30-12:00)に指定された Teams の URL に以下にアクセスすること。

講義予定

05 月 11 日：ガイダンス	----主にオンライン講義受講方法の注意、講義の説明
05 月 18 日：地球環境・地域環境概論	----地球環境問題と地域環境問題の概説
05 月 25 日：人体理解のための基礎 1	----温熱感覚、快適指標、環境心理)
06 月 01 日：人体理解のための基礎 2	----体内薬物動態、代謝
06 月 08 日：環境理解のための基礎 1	----空気環境
06 月 15 日：環境理解のための基礎 2	----熱環境
06 月 22 日：環境理解のための基礎 3	----湿気・水環境
06 月 29 日：環境理解のための基礎 4	----日照・光環境
07 月 06 日：環境理解のための基礎 5	----音環境
07 月 13 日：地域環境問題 1	----公害(水俣病、新潟水俣病、四日市喘息、イタイイタイ病)
07 月 20 日：地域環境問題 2	----環境ホルモン、環境アセスメント
07 月 27 日：地球環境問題 1	----酸性雨、オゾンホール、気候変動
08 月 03 日：地球環境問題 2	----気候安全保障、国際政治
08 月 10 日：論点整理	----総合議論と質疑

成績評価方法

毎回の講義後に提出する小課題の提出状況ならびに最終レポートにて総合的に判断する。
小課題、最終レポートの比率は 50 : 50 程度。

レポート課題と作成に関する条件

小課題：環境問題に関連する用語を 3 個選び、それらの語を解説せよ。

- 翌週の講義開始前までに Moodle 経由で提出。
- 文章量の指定は無いが、

最終レポート課題：アメリカの Love Canal 事件について、その自然科学的メカニズムと社会的対応を述べよ。また Love Canal 事件と日本の公害事例を比較し、見解を述べよ。

- 分量(解答の分量)は 3000 Words 以上とする。
- 図表を引用する場合、出展を明記し、参考文献として文末にリストアップすること。
- 学籍番号(半角)、氏名を明記すること。レポート初頁の左上部に記載すること。学籍番号と氏名の欠落しているものは、採点対象外とする。
- 締め切りは 8 月 10 日 18:00。それ以降は受け付けない。
- 提出は E-mail にて、ito@kyudai.jp 宛
- E-mail の subject は学籍番号(半角)とし、メールの本文は名前のみを記載。

- レポートは、学籍番号.txt, 学籍番号.docx, 学籍番号.pdf 等の名称(半角)・書式で保存すること

参考図書等

必要な資料は講義中に配布もしくは Moodle/WEB (<http://www.phe-kyudai.jp>) 経由で配布する.

担当教員・連絡先(レポート提出先)

伊藤一秀(いとうかずひで)／総合理工学府／環境エネルギー工学専攻／ito@kyudai.jp